



乳がんを知ろう

ピンクリボン通信 vol.2



乳がん検診結果の見方が分からないわ。

乳がん検診を受けると、結果はカテゴリー分類という判定法で1～5に分けられます。本号ではカテゴリー分類の見方について説明させていただきます。

マンモグラフィのカテゴリー分類

精密検査不要

カテゴリー1 異常なし

カテゴリー2 良性

精密検査必要

カテゴリー3 良性と思われるが悪性も否定できない

カテゴリー4 悪性の疑い

カテゴリー5 悪性

カテゴリー3以上の場合に精密検査が必要になります。必ずしも“要精密検査＝悪性”ではありません。カテゴリー3の場合の乳がんの可能性は約5%と決して高くありません。

病期(ステージ)とカテゴリー分類は別物です。

カテゴリーはマンモグラフィや超音波検査の判定に用いられます。一方、病期(ステージ)は乳がんの進行度です。この2つを混同しないことが重要です。検診のマンモグラフィで「カテゴリー3」と言われた女性が、乳がんの病期(ステージ)Ⅲと誤解してしまうことがあるので、注意が必要です。



マンモグラフィ検査を受ける際の注意



撮影の際に不明な点があれば遠慮なく技師にお尋ねください。

- **乳房を圧迫して撮影をします**
個人差はありますが痛みを感じる方もみえます。乳房の張りによっても痛みの感じ方は変わります。一般的に生理直後の方が乳房が柔らかく、圧迫時の痛みは少ないと言われています。
- **上半身は裸で撮影します**
服装はできるだけ上下セパレートの服でお越しく下さい。
- **撮影はすべて女性技師が行います**

参考文献: 福田護編著「ピンクリボンと乳がんまなびBOOK」, 社会保険出版社, 2014年

©藤田医科大学ばんだね病院 放射線部